

官報

號外

明治三十七年十二月四日

日曜日

印刷局

○第二十一回衆議院議事速記録第三號

明治三十七年十二月三日(土曜日)午後一時十六分開議

議事日程 第二號 明治三十七年十二月三日

午後一時開議

第一讀會

○議長(松田正久君) 開會致シマス、諸般ノ報告ヲ致シマス
(書記朗讀)

臨時事件費支辨ニ關スル法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

非常特別稅法中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

鹽專賣法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

相續稅法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

酒造稅法中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十九 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提

出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

麥酒稅法中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十六 酒母、膠及麴取締法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十七 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提

出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十八 酒造組合法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十九 酒造組合法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十一 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十二 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案(政府

提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十三 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十四 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十五 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十六 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十七 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十八 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十九 鑛業法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 御詔令ヲ致シマスルガ、滿洲軍ニ對シ及帝國艦隊ニ對スル慰問状ヲ發セラレテハ如何デアラウカト思ヒマスルカラ……
○議長(松田正久君) 然ラバ御異議ナイモノト認メマシテ、先づ滿洲軍ニ對スル慰問状ノ草案ヲ、議長ノ手許ニ於テ書キマシタカラ、今之ヲ朗讀致シマス
(贊成々々ノ聲起ル)
我が滿洲軍ハ遠征萬里懸軍十月銳ヲ摧キ堅ラ抜キ激戰奮鬪茲ニ數十回兵氣益旺ニシテ我が武維レ揚レリ是レ國民ノ感激シテ措カサル所ナリ時祁寒ニ際シテ勞筋更ニ大ナラム衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ熟誠ノ性ヲ彰ハシ將校士卒ノ勇健ヲ祈ル

○議長(松田正久君) 御異議アリマセヌナラバ、可決シタルモノト認メマス

○議長(松田正久君) 然ラバ滿洲軍ニ對スル慰問状ハ、可決セラレタルモノト認メマス、次ニ帝國聯合艦隊ニ對スル慰問状ノ草案ヲ朗讀致シマス

(帝國聯合艦隊ニ對スル慰問狀)

我カ帝國聯合艦隊ハ遠征以來茲ニ十箇月常ニ風濤ノ間ニ立テ萬死ヲ冒シ百難ヲ排シテ旅順ノ封鎖ヲ全フシ今ヤ敵艦ヲシテ殄滅ニ瀕セシム其ノ功洵ニ偉ナリ是レ國民ノ感激シテ措カサル所ナリ時祁寒ニ際シテ勞動更ニ大ナラム衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ熱誠ノ忱ヲ彰ハシ將校士卒ノ勇健ヲ祈ル

(拍手起ル)

○議長(松田正久君) 御異議アリマセヌナラバ、可決シタルモノト認メマス

○議長(松田正久君) 議長

○議長(松田正久君) 寺内陸軍大臣ノ演説

(陸軍大臣寺内正毅君登壇)

(拍手起ル)

○陸軍大臣(寺内正毅君) 唯今滿洲軍ニ對シマシテ、慰問状ヲ發セラル、コトガ、全

會一致ヲ以テ可決セラレマシタコトニ付ア、一言御挨拶ヲ申シマス、御承知ノ如ク我滿洲軍ハ、出征以來七箇月間ニ於テ、十五回ノ大戰ヲ致シマシタ、每戰ニ勝ヲ奏シマシタノハ、固ヨリ首將ノ計畫ノ宜シキヲ得タモノデモゴザリマスルシ、又戰鬪ニ從事致シマスル將校下士卒ノ勇武之ヲ致シタト云フコトモ、明カデゴザイマスルガ、又第一ニ此有力ナル忠誠ナル國民ノ後援ノ、大ニ與ツテ居ルト云フコトヲ信ジマス、今日マデノ間、出征以來可ナリ強敵ト相對シ、炎暑ト相鬪セ、今日ノ成績ヲ得マシタノハ、誠ニ吾々モ諸君ト共ニ悅ブ所デゴザイマス、又旅順ノ方向ニ於キマシテハ、攻圍軍ハ旅順攻圍以來、日トナク夜トナク決死ノ兵ト又堅城鐵壁ト鬪ヒツ、アルノテ、日々ニ其功ヲ進メツ、アル次第アリマス、殊ニ本期ニ於キマシテハ、——今ヨリハ又勁敵ト一層ノ互寒ト共ニ戰ハナケレバナラヌ次第

デゴザイマス、斯ル際ニ於キマシテ、國民ノ大多數ヲ代表セラル、トコロノ諸君ヨリ、慰問ヲ發セラル、ト云フコトハ、出征軍ニ取リマシテハ、非常ナル感激ニ堪ヘヌコトデアラウト考ヘマス、因テ將來倍々奮勉努力、最終ノ目的ニ進ムコト、考ヘマス、本大臣ハ茲ニ一言ノ謝意ヲ表シマス

(拍手起ル)

○海軍大臣(男爵山本權兵衛君) 議長

(海軍大臣男爵山本權兵衛君登壇)

(拍手起ル)

○議長(松田正久君) 山本海軍大臣ノ演説

○海軍大臣(男爵山本權兵衛君) 唯今當議場ニ於カレマシテ、議長閣下ヨリ出征帝國ノ艦隊ニ對シ、慰問狀ニ御詰リガゴザイマシタガ滿場一致ヲ以テ可決セラレマシタ、慰問狀ノ御趣意ハ取敢ズ電報ヲ以チマシテ出征艦隊ニ知ラシメ、諸君ノ熱誠ナル御趣意、即チ國民ノ聲ヲ知ラセマシタナラバ、出征艦隊ノ將士ニ於キマシテハ、非常ナル感動ヲ以テ之ヲ迎ヘルデアラウト確信致スノゴザイマス、開戰以來既ニ十箇月餘ヲ經過致シマシタガ、此間數度ノ戰ニ於キマシテ、艦隊ハ善ク戰ヒ善ク勝チ、今ヤ敵ヲシテ旅順竝ニ浦鹽ノ兩港ニ居伏セシム、而シテ直接間接ニ之ヲ封鎖シ、確實ニ今ヤ成功ヲ收メツ

○大藏大臣(男爵曾禰荒助君) 唯今總理大臣ヨリ、此時局ニ於キマスル豫算案並ニ法律案ニ付、一言セラレマシテゴザリマス、本大臣ハ更ニ豫算ノコトニ付キマシテ、諸君ノ御耳ニ入レヤウト考ヘマス(「大キナ聲デヤレ」ト呼フ者アリ)私ハ茲ニ明治三十八年度ノ豫算並ニ臨時軍事費追加豫算ヲ、諸君ニ紹介致シマス、此今日ノ國家未嘗有ノ時局ニ方リマシテ、不肖が諸君ト共ニ戰時ノ財政経費ニ任シテ、其討究ヲ爲スコトヲ得マスルノハ、誠ニ光榮ノ至リト存ジマス、日露事件ノ開始以來、既ニ一年ニ垂ント致シマスルガ、國民ハ能ク空前ノ負擔ニ堪ヘ、將士ノ作戰経費ト相待テ戦局ノ前途ヲシ

アリマスルノハ、段レ多クモ是レ 大元帥陛下ノ御威稜ニ因ルコトハ勿論デゴザイマスルケレドモ、亦以テ國民ノ忠勇ナル援護ト、帝國艦隊ノ忠勇義烈ノ然ラシムルトコロニ依リマシテ、此效果ヲ收メツ、アルト云フコトヲ信ズルノゴザイマス、今ヤ戰鬪ニ加フルニ互寒ニ期ニ臨ミ、風浪雨雪ト相鬪セ、具サニ艱苦ヲ嘗メツ、ゴザイマスルケレドモ、時局ノ前途ハ益々遼遠ニシテ、士氣壯盛ナルコトヲ諸君ニ紹介致シマス、就キマシテハ我海軍ノ將士ハ申スマデモナク、國民ハ各々其本分ヲ明カニシ、能ク其事ニ從ヒマシテ、終局ノ目的ヲ收メンコトヲ、諸君ト共ニ偏ニ期待シテ已マザル次第デゴザイマス、本大臣ハ是ニ於キマシテ政府ヲ代表シ、深ク諸君ニ向ヒマシテ感謝ノ意ヲ表シ置キマス

(拍手起ル)

○内閣總理大臣(伯爵桂太郎君) 議長

(内閣總理大臣伯爵桂太郎君登壇)

(拍手起ル)

○内閣總理大臣(伯爵桂太郎君) 諸君、本大臣ハ臨時議會ニ於キマシテ、諸君ト共ニ軍國ノ大事ヲ翼賛スルノ光榮ヲ荷ヒマシタガ、今ヤ時局ニ關スル要務ヲ議スルタメニ、茲ニ再び諸君ト相會同スルコトヲ得マスルノハ、本大臣ノ最モ欣幸トスル處デゴザイマス、諸君、開戰以降我軍が連戰連捷、戰局漸次其歩ヲ進メマスルノハ一二陸下ノ御稜威ニ因ル次第デゴザイマス、而シテ陸海軍人が作戰宣シキヲ得、隆暑ニ耐ヘ互寒ヲ冒シ、萬難ヲ凌イテ克ク其忠勇ヲ致シマスルノト、國民が一致協同愛國ノ至誠ヲ竭シ、資源ノ培養ニ勉メ、軍資ノ供給ヲ豐ニスル等、此時局ニ處スルノ途ヲ得テ居リマスルトハ、亦實ニ今日アル所以アルト云フコトヲ疑ヒマセヌ、併ナガラ前途ハ尙遼遠デゴザイマスル、本大臣等ハ諸君ト共ニ聖旨ヲ奉體致シマシテ、堅忍持久、終局ノ目的ヲ達シマスルコトノ責任ハ、重且ツ大ナルコトデアルト信ジマス、前議會ニ於キマシテ、諸君ノ協贊ヲ得マシタル臨時軍事費豫算ノ期限モ、既ニ其終リニ近ヅキマシタガ、時局ノ趨勢ハ、前途尙十分ナル計畫ヲ要シマスル次第デゴザイマスル、而シテ其計畫ノ大要ハ既ニ聖旨ヲ奉シマシテ、提出致シ置キマシタコロノ豫算案及法律案等ニ依シテ、諸君ノ御承知ニナツテ居ルコト、存シマスル、本大臣ハ諸君ト共ニ當初ノ決心ニ基キマシテ、交戰ノ目的ヲ貫徹スルト申スコトニ付キマシテハ、苟モ遺算ナキヤウ致シタトイト存ジマス、又明治三十八年度ノ豫算案其他ノ議案ニ付キマシテモ、諸君が慎重審議、速ニ協贊ヲ與ヘラレマスルコトハ、本大臣等ノ切ニ希望致シマス次第デゴザイマス

(拍手起ル)

○大藏大臣(男爵曾禰荒助君) 諸君、本大臣等ノ切ニ希望致シマス次第デゴザイマス

(拍手起ル)

○議長(松田正久君) 曾禰大藏大臣ノ演説

(大藏大臣男爵曾禰荒助君登壇)

(拍手起ル)

○大藏大臣(男爵曾禰荒助君) 唯今總理大臣ヨリ、此時局ニ於キマスル豫算案並

ニ法律案ニ付、一言セラレマシテゴザリマス、本大臣ハ更ニ豫算ノコトニ付キマシテ、諸君ノ御耳ニ入レヤウト考ヘマス(「大キナ聲デヤレ」ト呼フ者アリ)私ハ茲ニ明治三十八年度ノ豫算並ニ臨時軍事費追加豫算ヲ、諸君ニ紹介致シマス、此今日ノ國家未嘗有ノ時局ニ方リマシテ、不肖が諸君ト共ニ戰時ノ財政経費ニ任シテ、其討究ヲ爲スコトヲ得マスルノハ、誠ニ光榮ノ至リト存ジマス、日露事件ノ開始以来、既ニ一年ニ垂ント致シマスルガ、國民ハ能ク空前ノ負擔ニ堪ヘ、將士ノ作戰経費ト相待テ戦局ノ前途ヲシ

テ、聊カノ支障モナイヤウニ至シテ居リマスルハ、固ヨリ
テハゴザイマスルガ、抑々又國民ガ所謂舉國一致奉公ノ精神ヲ發揮シタルガタメニ外ナ
ラスコトデゴザイマセウト信シテ疑ヒマセヌ、故ニ此點ニ付キマシテハ、私ハ諸君ト共ニ此

國家ノ前途ニ對シ、今日ニ於テ此昌運ヲ見ルコトヲ祝シマスルト同時ニ國民ノ隆盛ヲ圖

ルコトニ付キマシテハ、大ニ御互ニ盡サナケレバナラヌコト、信シマス、既ニ御手許ニモ迴ダ

居リマスル如ク今ヤ戰局ノ進行ニ伴ヒ、臨時軍事費ノ追加ヲ要シ、再ビ之ヲ國民ノ敵愾

心ニ訴フルノ必要ニ迫リテ居リマス、臨時軍事費ノ追加額ハ陸海軍ヲ合セテ七億圓ニ

ナリマスル、外ニ臨時公債ノ利子等ニ要シマスル費額八千万圓ヲ加フルトキハ、臨時事

件ノタメニ要スル豫算ノ總額ハ、七億八千万圓ニ達スルノ計算ニアリマス、固ヨリ戰局

ノ變化如何ニ依リマシテハ、又多少ノ増減ハ免レヌコトデゴザイマセウ、然レドモ政府ニ

於キマシテハ、出來得ル限り節約ノ方針ヲ以チマシテ、豫算ヲ調製シテ居リマス、又此

稅ヲ増徵シ、尙新ラシイ稅源モ加ヘマス、又一面ニハ公債ヲ募集シ、並ニ一時借入金ヲ

爲シマシテ、兩々相持シテ支辨スルト云フ經畫ヲゴザイマス、而シテ今回ノ増稅總額ハ、約

八千二三百万圓程デゴザイマシテ、公債及一時借入金ノ總額が五億六千六百万圓程ニ

ナリマス、併ナガラ右ノ公債及一時借入金ノ中テ、約一億二千万圓ト云フモノハ、既ニ

公債募集濟トナリマシテ、是ハ今日ノ議題ニモ上ラテ居リマスルガ、先日英吉利竝ニ亞

米利加ノ方ニ發行致シマシテ、故ニ明年度ニ於キマシテ、實際募集又ハ借入ヲ要スル額

ハ約四億五千万圓デゴザイマス、本大臣ハ此經畫ヲ立テマスルニ方リマシテハ、内ハ國民

ノ負擔力ガドレダケアルカ、又ドレダケナラ宜カト云フコトヲ熟考シ、外ニ對シマシテハ我

財政ノ信用ヲ維持スルコトニ努メマシテ、此戰時財政ノ基礎が動搖セヌヤウニ、即チ

戰時財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル途ニ此手段ニ依ルノ外ナキヲ信ジタコロテ、狩ヘタ譯デ

ゴザイマス、明治三十八年一度ノ通常豫算ハ、今日ノ時局ニ鑑ミマシテ、極力節約ヲ努メ

マシテ、即チ其剩ストコロハ約一億二千万圓、是ハ悉ク臨時事件費ノ財源ニ流用致シ

マシテ、抑々明年度ノ歲計ハ、臨時事件費ト合セテ見マスルト云フト、約十億圓ニ垂

ント致シマスル、實ニ空前ノ豫算デゴザイマス、國家今日ノ時局ニ際シマシテ、誠ニ已

ムヲ得ザル數デゴザリマス、本大臣ハ諸君ト共ニ國家當面ノ急ヲ充タヌニ際シ、能ク大

(拍手起ル)

○議長(松田正久君) 是ヨリ讀事日程ニ移リマスガ、第一日程即臨時事件費支辨ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第二條 明治三十六年勅令第二百九十一號、明治三十七年法律第一號、同年勅令第二百二十八號及本法ニ依ル國庫債券及公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ國庫債券ヲ發行シ、公

(第一讀會)

(第一讀會)

(第一讀會)

(第一讀會)

(第一讀會)

債ヲ募集シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第三條 前二條ニ依ル一時借入金、國庫債券及特別會計ニ屬スル資金繰替整理償還スル爲必要アル場合ニ於テハ第一條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得

第四條 政府ハ臨時軍事費出納上一時ノ不足ヲ補充スル爲其ノ歲入ヲ以テ償還スヘキ大藏省證券ヲ發行スルコトヲ得

前項大藏省證券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外總テ大藏省證券條例ノ規定ヲ適用ス

第五條 一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

○江藤新作君(二百十九番) 本員ハ此委員選舉ノ方法ニ付テ希望ヲ述べ、且ツ諸君ノ御贊成ヲ得タイト思ヒマス、從來多クノ場合ニ於テ、特別委員ノ選舉ハ、議長ノ指名ニナラテ居リマシタガ、本日現ハレテ居ル日程ハ、眞ニ重大ノ關係ヲ有シテ居ルモノニアリマスカラ、成ルベク選舉ノ方法ヲ鄭重ニシテ、各部ニ於テ選舉致シマシテ、後其全數ヲ通算スルコトニ致シタイト思ヒマスカラ、其通諸君ノ御贊成ヲ希望致シマス(異議ナシ)

○議長(松田正久君) 發言者ガ無ケレバ、第二ノ日程ニ移リマス

○島田三郎君(二百七十八番) 唯今ノ發議ニ對シテ、反對ノ趣意ヲ述ベタイト思ヒマス

○議長(松田正久君) 演壇ニ御登リラ

(島田三郎君登壇)

○島田三郎君(二百七十八番) 諸君、唯今ノ發議ハ憲ニ簡單ナモノデゴザイマスガ、實ハ本會ノ會議ヲ全部支配スベキトコロノ、重要ノ關係ノアル發議デゴザイマスカラ、本員ハ今日ノ議場ノ形勢ヲ通覽致シマシテ、本員ノ反對ノ說が事實ニ行ハレルヤ否ヤニ付イテ、懸念致シマスルケレドモ、併ナガラ一般ノ形勢ト竝ニ國民ノ希望ニ對シテ、時局ニ關係ノアル重大ノ疑問デアリマスカラ、本員ノ反對ノ理由ヲ表明致シマシテ、同時ニ意志ノアル所ヲ議場ニ訴へ、間接ニ國民ニ訴ヘルタメニ一言ヲ述ベマス、甚ダ申ストが以前ニ遡リマスケレドモ、元來唯今ノ發議ハ、議院規則ノ本文ヲ正シク解釋セラレテ、鄭重ニ扱フト云フコト、鄭重ニ扱フト云フコトハ、發議者ト同意デアリマス、而カモ文字並ニ外觀ニ於テ之ヲ鄭重ニ扱フガ如ク見エルニ拘ハラズ、事實ハ之ニ反對アルトコロノ證ヲ舉ケヤウト思ヒマス(拍手起ル)尙又十年來若モ此議會ニ御臨ミニナリマシテ、議會ノ歴史ヲ御記憶ノ御方ハ、十年來特別委員ノ選舉ハ議長ニ任セマシタ、即チ議院規則ノ弊害ヲ見ナインテアリマス、之ガタメ議場並ニ委員ノ間が圓滑ニ行ハレテ、至極原案ヲ説明セラレ、政府モ便利ヲ得、竝ニ之ヲ審議討論致シマスル議會モ、非常ナ便利ヲ得

テ居ルノアリマス、是ハ總チ御承知ノ如ク、我議場ノ有様ハ、英國ノ如ク未だ政黨が全局ヲ制スルニ至ラズシテ、離合常ナク、尙且少數意見ノ参考ヲ必要トスル議會ノ形勢アルコトハ、達觀スル者ノ皆認ムルトコロデゴザイマス、之がタメニ議長ノ特選ニ任セマスレバ、有ラユル異種類ノ意見ヲ徵シテ、之ヲ委員ノ中ニ發表セシメテ、問フベキモノハ問ヒ、質ベキハ質シ、注意スベキハ注意シテ、略々完璧ノモト仕上ゲテ、之ヲ議場ニ出シマストキハ議場ヲ無益ノ爭論ヲ爲サズシテ、議案ヲ討議スルコトが出來ルノデゴザイマス、若シ諸君が此慣例ヲ破リマシテ、唯今ノ發議者ノ如ク致シマスレバ、常任委員ヲ選舉シタル歴史ハ、明ニ大過數ヲ占メテ居ルトコロノ政進ニ「黨」ノ諸君ガ、多數ヲ委員ノ中ニ御組入レニナルト云フコトハ、何人モ見ル所デゴザイマス(「ヒヤミ」と呼フ者アリ)是ハ本員ハ少シモ之ニ向テ異存ハナリ、多數ノ者が議會ヲ制スルト云フコトハ議會ノ常則デアルカラ、之ニ對シテハ議論ハナイデゴザイマスカ、若モ之ヲシテ平日ノ議會タラシムレバ、本員ハ此壇ニ登ツテ態ニ諸君ノ御聞ヲ煩ハサヌノデゴザイマスガ、併ナガラ今日ノ形勢ハ平常ト違テ居リマス、國民ハ平生種々ナル議論ノアルニ拘ハラズ、舉國一致ノ此簡單ナル神聖ノ熟字ノ下ニ、對外ノ精神ヲ發揮シテ居リマスカラ、議會モ亦黨派ヲ代表セラル、領袖諸君ハ、飽マデ十有餘年ノ間、政府ト争フベキハ争ヒ、質スベキハ質シテ、種々ナル經歷ヲ有シテ居ラル、ニ拘ハラズ、今日國民ノ心ヲ心トシテ議會ニ列スル政黨諸君ハ、此舉國一致ノ實績ヲ議會ノ上ニ擧げラレントヨ、專念一意ノ志デナケレバナラヌト本員ハ信ジマス、吾ミ力微ナリト雖モ、此神聖ナル義務ニ向シテハ、重大ナル心服ヲ以テ居リマシテ、之ニ服從スル心得デゴザイマス、此事ニ至ラハ議員諸君ノミナラズ、政府當局ノ方モ同シ精神ヲ以テ、其誠ヲ披瀝シテ、議院ニ莅マレタ確信致シマス、ソレ故ニ舉國一致ノ實ヲ委ゲント致シマスレバ、國民ヲシテ總テノ代表ノ思想ヲ表ハサシメルコトが必要デアルト思ヒマス、若モ常任委員ノ選舉ノ如キ、總ノ者ガ多數ノ黨派ノ委員ヲ以テ調査セシムト云コトニナリマスルナレバ、勢ヒ議場ニ其異論者ハ異議ヲ唱ヘナケレバナラズ、其注意ヲ與ヘナケレバナラズ、質問モ致サナケレバナラヌト云フノデ、議場ノ經過ハ委員會ノ中ニ總テ終ルベキモノヲ、議場ノ問題トシナケレバナラヌ不便ヲ現ハスハ、議事ノ經過ニ於ア、特ニ軍國議會ノ形勢ニ於テ、本員ハ好マザル處デゴザイマス、是ハ唯議事ノ便不便ヲ本員が論ズルノデゴザイマスケレドモ、或人ノ公ニ述べタルトコロノ言葉ハ、本員等ハ確ニ國民ヲ鼓舞シ、國民ヲ警戒シタルトコロノ立派ナル言論デアルニ拘ハラズ、之ヲ傳ヘ傳ヘテ外ニ及ボスト、恰モ雪ニ雪上ニ轉バスが如ク、轉輾シテ意味ガ達タコトが傳ハルノアリマス此舉國一致ノ精神ヲ此議場ニ發揮シテ、國民一致ノ實績ヲ現ハスニ、種々ナル意見ガアルナラバ、委員會ノ中ニ總テノ注意ヲ集メ、總テノ質問ニ答ヘテ、圓滿ノ結果ヲ現ハスガ、外軍人ニ對スル國民ノ誠デハアルマイカト思フ、畏クモ陞下ノ御言葉ヲ奉戴シテ、斯ノ如キ態度ヲ取ルが必要ナコトアラウト思フ、本員ノ知り得ルトヨロノ見解ニ於アハ、縱令少ノ異議ガアツテモ、大事小事ノ比較ヲ取シテ、本會ニハ餘り異論ヲ發言シナイト云フ、誠ニ親切ナル考ヲ持テ居る議員諸君ヲ、本員ハ數々舉ゲルコトが出來ル、定メテ此會ニ歸シテ居ル諸君ハ、言ハズトモ斯ノ如キ精神ヲ持シ居ラル、デアラウト思フ、然レバ委員會ニ於テ多クノ異議ヲ集メ、多クノ考ヲ集メ、ノルト云フコトガ、今日ニ於テ必要デアラウト思フ、是ハ唯今感謝狀ヲ決議致シマシタコロノ、軍人ニ對スル誠ノ行ヒテハアルマイカト思フ、感謝ト云フノハ、言葉ト文章ヲ以テ盡スベキデナクシテ、實ノ行ヲ以テ軍人ニ對スルガ、本員ハ必要デアルト感シマスカラ、成ルベク軍國ノ議會ニハ、少シノ異議ガアツテモ、此議場ニ斯ノ如キ異議ノ争ハ減ジテ、一瀉千里ノ勢ヲ以テ、必要ナル軍費ヲ豊カニ供給スルコトヲ、快ク決議致シタコト思フ、然ラザレハ勢一方ニハ時局ニ對シテ、斯ノ如キ舉動ヲナスノ必要ガアリ、一方ニハ時ニイロくノ日論見ニ

瓦ル増稅及新稅ト云フモノガアルノデゴザイマスカラ、アラユル異タル事柄及イロクノ便不便ヲ、議會ノ上ニ言ヒ現ハシテ、同シ額ノ稅ヲ取ルニモ、國民ニ痛苦ヲ與フル度合ノ少ナカランコトヲ望ムガ、議會が國民ニ對スル神聖ノ職分デアルト本員ハ信ズル、唯今ノ發議ノ如ク、此慣例ヲ破ルノハ何故デアルカ、本員ハ解シ得ラレマセヌノミナラズ、慣例ヲ破テ、委員會ニ於テ政府委員ニ質問ヲナス能ハズンベ、已ムヲ得ズ國民代表者ハ、本員ニ於テ委員諸君が再度聞カル、ヲ厭フ所ノ質問が出来ルト思フ、本員ハ深ク此組織ニ於テ惜ムノデアリマス、若シ委員會ニ質問ヲ盡シ終フスレバ、此議場ニ再度質問ヲ爲ス必要ガナイン、議事ノ經過ニ於テ、今日ノ時局ニ於テ、斯ノ如キ必要ヲ一層感ズル國民ニ對スル職分ニ於テ、本員ハ何故ニ十年來達ハザル慣例ヲ、此軍國議會ニ限テ變更サレテ、唯多數黨ノ意見ヲ以テ一時ノ急ヲ救ハントセラル、が、本員ノ疑ノ解ケサルトコロデアリマス、議會ハ國民ヲ代表スルノテ、少數黨ノ意見モ神聖トシテ崇敬スルガ、議會ノ好慣例デハアルマイカト思フ、況シヤ今日ノ時局ニ於テ、斯ノ如キ必要ヲ一層感ズルノデアル、此事が議會ノ神聖ニ關係アルヲ確信スルが故ニ、諸君ヲ煩ハシテ此決議ニ反對ヲシ、是迄ノ慣例通ニアラユル意見ヲ集メテ、委員會ニ於テハ討論審査ノ大切ナル所トシテ、之ヲ本會ニ出シタル以上ハ、一瀉千里ヲ以テ、斯ノ如キ軍費ヲ支給スル圓満ノ議會ノ行動ヲ取ルコトヲ、切ニ望ムノデアル、若シ此事が行ハレズシテ斯ノ如キトコロヘ修正ヲ加ヘテ、民ノ痛ミヲ減シタコトキニ、委員會ニ於テハ討論審査ノ大切ナル所圆満ニ成立ヌデアルト、他日嘆息ヲ漏ラス者ガアレバ、之ヲ發議シタ者ガアレバ、之ヲ贊成シテ、之ヲ實行シタ諸君ノ責任ニ屬スルノデ、本員ハ此意見ヲ表明シタルガタメニ、本員ハ其責任ヲ免ル、モノニアルト思フ、委員會ニ於テ緊要ナル發讀モ成ルタケ見合スト、已ムヲ得ズシテ本會ニ於テ異論アル者カラシテ、議論が出来タラバ、此事ヲ發議サレタル諸君ノ責任デアラウト思フ、斯ノ如キ重大ノ責任ヲ、殊ニ此場合ニ於テ取ルノ必要ハナクシテ、却テ圓満ナル議會ノ進行ヲ助ケ、外ハ軍人ニ對シ國民ニ對シ議會ノ職務ヲ適當ニ行フが必要ノコトデアルト思フ、故ニ本員ハ此發議ニ反對ヲ表シ、從來ノ慣例ヲ維持致シタイト思ヒマス

(拍手起ル)

○議長(松田正久君) 鳩山和夫君

(鳩山和夫君登壇)

○鳩山和夫君(二百二十九番) 極メテ小ナル如キ形ノアル問題ヲ、此大ナル議事ヲス傳ハルノアリマス此舉國一致ノ精神ヲ此議場ニ發揮シテ、國民一致ノ實績ヲ現ハスニ、種々ナル意見ガアルナラバ、委員會ノ中ニ總テノ注意ヲ集メ、總テノ質問ニ答ヘテ、圓滿ノ結果ヲ現ハスガ、外軍人ニ對スル國民ノ誠デハアルマイカト思フ、畏クモ陞下ノ御言葉ヲ奉戴シテ、斯ノ如キ態度ヲ取ルが必要ナコトアラウト思フ、本員ノ知り得ルトヨロノ見解ニ於アハ、縱令少ノ異議ガアツテモ、大事小事ノ比較ヲ取シテ、本會ニハ餘り異論ヲ發言シナイト云フ、誠ニ親切ナル考ヲ持テ居る議員諸君ヲ、本員ハ數々舉ゲルコトが出來ル、定メテ此會ニ歸シテ居ル諸君ハ、言ハズトモ斯ノ如キ精神ヲ持シ居ラル、デアラウト思フ、然レバ委員會ニ於テ多クノ異議ヲ集メ、多クノ考ヲ集メ、ノルト云フコトガ、今日ニ於テ必要デアラウト思フ、是ハ唯今感謝狀ヲ決議致シマシタコロノ、軍人ニ對スル誠ノ行ヒテハアルマイカト思フ、感謝ト云フノハ、言葉ト文章ヲ以テ盡スベキデナクシテ、實ノ行ヲ以テ軍人ニ對スルガ、本員ハ必要デアルト感シマスカラ、成ルベク軍國ノ議會ニハ、少シノ異議ガアツテモ、此議場ニ斯ノ如キ異議ノ争ハ減ジテ、一瀉千里ノ勢ヲ以テ、必要ナル軍費ヲ豊カニ供給スルコトヲ、快ク決議致シタコト思フ、然ラザレハ勢一方ニハ時局ニ對シテ、斯ノ如キ舉動ヲナスノ必要ガアリ、一方ニハ時ニイロくノ日論見ニ

イノデアル、質問モ爲スペシ、討論モ爲スペシ、十分ニ研究シテ、ソレガ世ノ中ニ傳レバ、即チ此議場ナルモノガ如何ニ鄭重ニ審議シタイト云フコトガ、世間ニ發表シテ、此議會ノ意志ト云フモノガ、國民ニ能ク分ル、ソレヲ唯委員會ノミニ於テ質問ヲシ、委員會ノミニ於テ討論ヲスル、此處ヘ來テ——此議場ヘ來テハ唯形式テ可否ノ決ヲ採ルノミテアルト云フコトニシタナラバ、此議場ト云フモノハ、眞ニ平々凡々詰ラナイモノニナツシマフダラウト思フ、今一ツハ舉國一致ノ實ヲ妨ゲルト云フヤウニ承ッタガ、是ハドウモドウ云フ所カラシテ、委員員選舉ガ舉國一致ノ實ヲ妨ゲルノアルカ、委員選舉ノ方法ト舉國一致トノ間ノ聯絡ガ、餘程付キニアイト思フ、此思想ノ聯絡ハ私ニハ能ク分ラナイ、分ラナイケレドモ島田君ハ斷定セラレタノデアルカラ、何カ理由ガアルカラ、知リマセヌガ、ドウモ、其聯絡が分リマセヌカラシテ、是ハ實ニ答辯ノ仕方が無イノアル、サリナガラ江藤君ノ發講ヲ聽いて見ルト、吾ニハ重大ナル議事ヲ爲スノデアルカラシテ、其下調ヲスルトロヨノ委員ハ、之ヲ鄭重ニ選舉シヤウト云フノデアル、吾ニガ委員員ノ選舉ニ鄭重ナル方法ヲ執リマシテ、適任者ヲ舉ゲヤウトスルノガ、何故ニ舉國一致ノ實ニ背クノデアリマスルカ、或ハ島田君ノ演説中ニ、サウスルト政進ニ一大黨ガ委員ヲ壟斷シテシマフト云フヤウナ風三取レル言葉ガアリマシタケレドモ、各部デ選舉致シマシテモ、吾ニハ自由ノ意思ヲ以テ、適任者ト認ムル人ヲ選舉スルノデアルカラ、島田君ノ如キ若シ、適任者ト認メラレナカツタナラバ、當選シナイマジノ話ニアリ、御自身デハ如何ニレガエライト思ウテモ、他ガ認メヌ吳レナケレバ仕方がナイ話ニアリ、斯ウ云フ次第アリマスカラ、必シモ各部選舉ニ於テ、政進ニ一大黨ガ舉ガルト極マズ居ナイ、併シ多分結果ハサウナルデアラウト思フ、サウナルデアラウト思フノハ、政進ニ一大黨ノ人ハ自分ノ一大黨派ニ居ル人ガ、今日ノ政治世界ニ立テハ、一番適任者アルト思フノアル、御一人一人ト致シテハ、如何カ知レマセヌケレドモ、併ナガラ此ニ一大黨ノ人ハ我黨ニ屬スル所ノ者ヲ、最玉自分ノ意志ヲ達スルニ近イ政友ト心得テ居ルノアル、其政友ヲ能ヲ有シテ居ル人ガアツテ、之ヲ委員ニ舉ゲナケレバナラヌト云フ場合ニハ——ソレガ國家ノ利益デアルト断定スル場合ニハ、其特別ノ技能アル人ハ、ヤハリ委員ノ中ニ加ヘタルデアラウト思フノアル、詰リ此選舉方法ハ特別ノ選舉アル、却ア法律ニ或技術上カ何カニ付イテ、黨ニ其人ヲ得ズシテ、或ハ他ノ黨或ハ中立黨ニ、特別ノ技能ヲ有シテ居ル人ガアツテ、之ヲ委員ニ舉ゲナケレバナラヌト云フ場合ニハ——ソレガ國家ノ利益デアルト断定スル場合ニハ、其特別ノ便法ヲ與ヘタノデアル、普通ハ委員ト云フモノハ、選舉スルノガ當然デアル、其故ニ議院法ニ於キマシテハ、特別委員ハ議院ニ於テ之ヲ選舉スルノ規定シテアツテ、衆議院規則ニ於テ議長指名ト云フ便法ヲ、一ツ用井出シタダケテアル、即チ本式ニ依テ委員ヲ選舉シヤウト云フ案ニアリマスルカラハ之ニ對シテ反対スルノハ、チト無理若クバ思発シテアラウト考ヘマス

上ヨリ察シマスレバ、大事ナル所ノ問題デアルカラ、選舉ノ用井テ適任者ヲ選ンテ、而シテ慎重ニ委員會ヲ致シタイト云フ御趣意デゴザイマス、此言葉ノ通テアリマスルナラバ、洵ニ立派ナ事デゴザイマスルガ、果シテ此選舉ノ結果ガ左様ナ美風ニ伴フデゴザイマセウカ、又本案ヲ提出致シマシタルトコロノ精神ハ、果シテ左様ナ意見ヨリ出デタモノデアリマセウカ、私共ハ大ニ疑ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、全體此議會ニ於キマシテハ、成ルベク公平ヲ保ツト云フコトハ、論ズルマデモナニ事柄テアル、多數ノ政黨ガアリマスレバ、其政黨が勢力ヲ得ルト云フコトハ、無論已ムヲ得ナイコトデアル、是ハ自然ノ勢デゴザイマスガ、シタカラト云ツデ、ワレガタメニ委員會ニ何程ノ妨ガアリマセツ、ソレガタメニ多數ノ政黨ハ損害ヲ受ケルト云フコトガアリマセウカ、啻ニ各派ノ意見ヲ疏通致スト云フ利益ハアッテモ、ソレガタメニ多數政黨ガ、少シモ損失ヲ受ケルト云フコトハ無イノデアル、然ルニモ拘ラズ、之ヲモ他ノ者ヲ懸シテ少シモ意思ヲ洩ラサナイト云フコトハ、天下ニ對シマシテ議會ハ公平ナモノデアルト云フコトヲ、發表致シタルモノデアルト云ハレマセウカ、曩ニ島田君が述ベラレマシタ、島田君が慣例ニ反クト云フコトヲ述ベタノデ、大ニ擊タレマシタケレドモ、島田君ト雖モ斯ル慣例ハ一回モ無カタト云フ趣意デアリマスマイ、斯ノ如キ慣例が多行ハレ、善良ナル慣例トシテ行ハレヌト云フコトデアル、又議場ヲ騒スト言ハレタコトニ對シテモ反駁ガアリマシタガ、議場ハイクラデモ騒イデ宜イ、ナンボテモ自由ニ論ズルハ宜イト云フコトデアリマシタガ、無論其通デアリマス、併ナガラ是ハ論ズルノ必要アツテ論ズルコソ宜ノデアツ、成ルベク左様ナ議論ハ議場ヲ騒ガサナイ中ニ鎮メルコトが出來テ、無益ナ騒擾ヲ議場三於テ惹起サナイヤウニスルト云ノハ、議會ノ善良ナル美風デバゴザイマセスカ、又舉國一致ノ態度ニ背クト云フコトハ、分ラナイト云フコトデアルガ、公平ヲ維持シ若クハ利益ノタメニ斯ル事ヲ爲スナラバ免モ角モ、唯多數壓迫行ハントスルガタメニ少シノ利害ニ關係ナイ場合ニ、他派ノ者ヲ一人毛其委員ニ入レナイト云フガ如キ心ヨリシテ、斯ノ如キ問題ヲ故ニ持出スト云フガ如キハ、舉國一致ノ精神ニ副フモノデハナイノデアル、若シ議長ガ指名ヲ致シテ見マシタナラバ、議長ハ必ヤ公平ノ處置ヲ就クル、デアリマセツ、又公平ノ處置ヲ取ラケレバナラヌ、是ニ於テ議長ニ公平ノ事柄ヲ行ハシデハナラヌ、左様ニナッテハナラヌト云フタメニ、斯ル案ヲ持出スト云フコト付イテハ反對ヲシナケレバナラヌノデ「拍手スル者アリ」諸君、願クハ天下満目ノ環視ノ中ニ開ケタル此議會ニ、甚シキ不公平ノ行ハル、コトノナイヤウニ、十分御考ニナッテ、ドウカ吾ミノ希望ニ達セラル、ヤウニ、御決議アランコトヲ希望致シマス

（「拍手スル者アリ」詩論終結ト叫ブ者アリ「賛成々々」聲起ル）

○議長（松田正久君） 多數ト認メマス、江藤君ノ說ニ決シマス

○○恆松隆慶君（百五十九番） 此委員ハ九名ト致シマス

○議長（松田正久君） 九名ノ說デスカ

○議長（松田正久君） 然ラバ定規ノ贊成ガアルト認メテ探決シマス、江藤新作君ノ動議、即チ各部通算ノ說ニ同意者ハ起立ナサイ

（起立者多數）

○議長（松田正久君） 討論終結ノ動議ニ賛成者ガアリマス

（「賛成々々」聲起ル）

○議長（松田正久君） 然ラバ定規ノ贊成ガアルト認メテ探決シマス、江藤新作君ノ動議、即チ各部通算ノ說ニ同意者ハ起立ナサイ

官報號外 明治三十七年十一月四日

衆議院議事速記錄第三號

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

三二 移リマス、非常特別稅法中改正法律案(第一讀會)開キマス、朗讀ハ省略シマス

第三 非常特別稅法中改正法律案(政府提出)

第一 読會

非常特別稅法中左ノ通改正ス

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲本法ニ依リ租稅ヲ增徵シ若ハ賦課シ又ハ印紙ヲ増貼シ若ハ貼用セシム

第二條 左ニ掲タル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徵ス

地租
市街宅地
郡村宅地
其ノ他ノ土地

地價百分ノ二十五箇五

地價百分ノ十箇五

營業稅
所得稅

營業稅法ニ依ル稅額十五割

第一種 所得

株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十人以上

上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會社

所得稅法ニ依ル稅額十五割

所得稅法ニ依ル稅額八割

所得稅法ニ依ル稅額十四割

所得稅法ニ依ル稅額二十割

所得稅法ニ依ル稅額二十八割

所得稅法ニ依ル稅額三十六割

所得稅法ニ依ル稅額四十六割

所得稅法ニ依ル稅額五十八割

所得稅法ニ依ル稅額七十一割

七 登錄稅 不動產ニ關スル登記
登錄稅法第二條第三號ノ登記
登錄稅法第二條第四號ノ登記
從來保有セル所有權ノ保存
華族世襲財產ノ創設

船舶ニ關スル登記

登錄稅法第三條第三號ノ登記

登錄稅法第三條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

船舶第六條及第六條ノ二ニ
依ル登錄稅

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ

一箇所ニ又ハ一件ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金十圓ナルトキ金五圓

稅額金三圓ナルトキ金二圓

稅額金一圓ナルトキ金五十錢

稅額金二十錢

麥酒
酒精又ハ酒精含有飲料
原容量百分中純酒精ノ容量二十以下ノモノ

原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金十錢

一石ニ付金五十錢

一石ニ付金二十圓

一百斤ニ付金三十錢

百斤ニ付金三圓八十錢

百斤ニ付金四十錢

一石ニ付金五十錢

一石ニ付金五十錢

一石ニ付金二十五錢

鑄業ニ關スル登録 試掘權ノ設定	金高一萬圓以下 金高二萬圓以下 金高三萬圓以下 金高五萬圓以下 金高十萬圓以下 金高二十萬圓ヲ超ニルモノ
相續以外ノ原因ニ因ル試掘權 ノ移轉	ノ移轉 ノ變更 ノ變更 ノ變更 ノ變更 ノ變更
採掘權ノ新規登錄	増區又ハ増減區ニ依ル試掘權 相續以外ノ原因ニ因ル試掘權 ノ移轉
增區又ハ増減區ニ因ル試掘權	相續以外ノ原因ニ因ル試掘權 ノ移轉
取引所稅	商品、有價證券 國債及地方債證券
狩獵免許稅	同 萬分ノ二
十一 鑄區稅 試掘 採掘	賣買各約定代金、高萬分ノ六 金二十圓 金二十圓 金五圓 鑄區一千坪每ニ一箇年金二十錢 鑄區一千坪每ニ一箇年金二十錢
十二 印紙稅 印紙稅法第四條ニ掲ケタル證 書帳簿但シ約束手形及判取帳 ヲ除ク 判取帳 約束手形 金高千圓以下	金一圓 金三圓 金五圓 金七圓 金十圓 金十五圓 金二十圓 金三十五圓 金四十圓 金四十五圓 金八十五圓 金一百圓 同一千圓未滿ノモノ 同二千圓未滿ノモノ 同三千圓未滿ノモノ 同五千圓未滿ノモノ 同一萬圓未滿ノモノ 同二萬圓未滿ノモノ 同三萬圓未滿ノモノ 同五萬圓未滿ノモノ 同七萬圓未滿ノモノ 同十萬圓未滿ノモノ 同十萬圓以上
印紙稅金一錢 印紙稅金五錢	印紙稅金一圓十八錢 印紙稅金二圓三十八錢 印紙稅金五十八錢 印紙稅金四圓九十八錢
十三 輸入稅 大砲、小銃、拳銃、刀劍、砲彈、 裝藥其、他諸兵器 權衡及尺度 晴雨計	金高五千圓以下 金高一萬圓以下 金高二萬圓以下 金高三萬圓以下 金高五萬圓以下 金高十萬圓以下 金高二十萬圓ヲ超ニルモノ
埠塲(各種) 刃物(別項ニ掲ケサルモノ) 電燈器械及同部分品 消防器械及同部分品 農具、工匠具及同部分品 樂器及同部分品 理學器、化學器、測量器、外科 器、其ノ他諸學術器(別項ニ掲 ケサルモノ) 寫真器及同部分品 蓄音器及同部分品 眼鏡及同部分品 獵銃及同部分品 電話機及同部分品 寒暖計 關稅定率法附屬輸入稅表第二 類ニ掲タル物品 甲 編製及綑入ノモノ、金銀 珠玉入ノモノ、白金製、 金製及銀製ノモノ 生卵 關稅定率法附屬輸入稅表第三 類ニ掲タル物品 其ノ他各種 關稅定率法附屬輸入稅表第四 類ニ掲タル物品但シ酒精(アル コール)各種變性アルコール、 各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク) 龍腦、艾片、寫真用古魚胃膜 及附屬ノ沃度意撒兒、麝香、	印紙稅金四錢 印紙稅金十三錢 印紙稅金二十八錢 印紙稅金五十八錢 印紙稅金一圓十八錢 印紙稅金二圓三十八錢 印紙稅金四圓九十八錢

人造麝香、松脂、曹達灰及苛性曹達ヲ除ク	從價五分
酒精(アルコール)	每リートル六錢
各種變性アルコール	每リートル六錢
龍腦及艾片(阿片)丁幾ヲ除ク	從價一割
寫真用古魯胄謨及附屬ノ沃度	從價一割
意撒兒	從價一割
麝香及人造麝香	從價一割
關稅定率法附屬輸入稅表第五類ニ掲タル物品但シ酸化古拔爾篤、金液、銀液及白金液、乾藍及ロクウードヲ除ク	從價五分
關稅定率法附屬輸入稅表第六類ニ掲タル物品但シ膽玻璃片(墨常ノモノ)フレート玻璃片(水銀ヲ塗リタルト否トヲ別々ス)屑玻璃及粉玻璃ヲ除ク	從價一割
關稅定率法附屬輸入稅表第七類ニ掲タル物品但シ綿種子ヲ除ク	從價一割
關稅定率法附屬輸入稅表第八類ニ掲タル物品但シ獸骨獸毛(羊毛、山羊毛及駱駝毛ヲ除ク)象牙、屑象牙、鱗甲、屑鱗甲及貝殼ヲ除ク	從價一割
鑽鑑	從價五分
銅	從價五分
線	從價五分
釘	從價五分
筒及管	從價五分
板	從價五分
鉛	從價五分
筒及管	從價五分
鋼(軟鋼ニ非サルモノ)	從價五分
線索(電鍍シタルト否トヲ別々ス)	從價五分
黃銅	從價五分
板	從價五分
鉛	從價五分
筒及管	從價五分
釘及螺	從價五分
金具	從價五分
提囊用金具	從價五分
キヤブシユール(鑄ノ口ニ用井ル金具)	從價五分
戶鎖、石鈕、石栓、蝶鉄類	從價五分
金銀其ノ他金屬箔及粉但シ青銅粉ヲ除ク	從價一割
鍍金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	從價一割
金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	從價一割
貨幣匣	從價一割
傘骨及附屬金具	從價一割
其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ金屬製品但シ建築材、橋梁材、電線支柱其ノ他類似ノ材料ヲ除ク	從價一割
關稅定率法附屬輸入稅表第十類ニ掲タル物品但シ椰子油、ヤリソヲ除ク	從價一割
石油(亞麻子油、松精油及スチヤリソヲ除ク)	從價一割
集畫帖(寫真用及郵便切符貼用ノモノ)	從價二割
白紙帳簿及書式類	從價一割
墨汁(寫字用及筆記用ノモノ)	從價五分
唐紙類(各種)	從價五分
鉛筆	從價五分
甲 金製及白金製ノモノ	從價五分
乙 其ノ他各種	從價五分
筆嘴	從價一割
甲 金製ノモノ	從價五分
乙 其ノ他各種	從價五分

封職 藁紙	從價五分
其ノ他各種ノ文具	從價五分
砂糖和蘭標本色相第十五號未滿	從價二割五分
糖蜜	從價一割
毛フエルト地	從價二割
支那縮絨	從價一割五分
支那絹繩	從價一割
支那絹繩子	從價一割
絹綿繩子	從價一割
刺繡絹布及刺繡絹綿布	從價一割
其ノ他各種ノ絹布(純絹ト他物ヲ交ヘタルトヲ別タス但シ絹ノ重量超過スルモノ)	從價一割
アルト既	從價一割
牕帷	從價一割
甲 紬製、麻製及麻綿製ノモノ(單製)	從價一割五分
乙 紬製及レース製ノモノ(各種)	從價二割
革布(家具等ニ用井ルモノ)	從價一割五分
油布及リノリニム(牀ニ用井ルモノ)	從價一割五分
檯衣	從價一割
甲 紬製及絹入ノモノ	從價二割
乙 其ノ他各種	從價一割五分
護謨紐類	從價一割
手巾	從價一割五分
甲 紬製、麻製及麻綿製ノモノ(單製)	從價一割五分
乙 紌製及レース製ノモノ(各種)	從價二割
革布(家具等ニ用井ルモノ)	從價一割五分
油布及リノリニム(牀ニ用井ルモノ)	從價一割五分
浴巾(單製連製ヲ別タス各種)	從價一割五分
其ノ他各種ノ布帛製品	從價五分
綿線及苧麻線	從價一割五分
諸製造煙草	從價二割
支那酒(釀造シタルモノ)、ボルト清酒	從價十割
各種ノ酒類(シマツ酒、黒麥酒、シヤムパン及類似ノ沸騰酒、支那酒(釀造シタルモノ)、ボルト清酒)	從價三割
阿膠(普通)	從價三割
石膏	從價一割
象牙製品(別項ニ掲ケサルモノ)	從價五分
琥珀	從價一割
甲 加工セサルモノ	從價五分
乙 加工シタルモノ	從價一割
石絨(板)	從價五分
竹材(工ヲ加ヘサルモノ)	從價五分
革帶、帆布帶及帆布管(機械ニ用井ルモノ)	從價五分
動物但シ牛、馬、驢、騾、綿羊、山羊及鷄ヲ除ク	從價五分
衝球臺及附屬品	從價五分
磚瓦(建築用ノモノ)	從價五分
ブラン及帯(各種)	從價五分
杖及鞭	從價一割
乘車、自轉車及同部分品	從價一割
貨車	從價一割
セリュロイド	從價一割
乙 工ヲ加ヘタルモノ	從價一割
白堊及ホワイトニング	從價五分
木炭及骨炭	從價五分
粘土(各種)	從價五分
焦炭	從價五分
珊瑚(加工シタルト否トヲ別タス)	從價一割
苧麻繩索(船用ト否トヲ別タス)	從價五分
玻璃刀	從價五分
金剛砂	從價五分
金剛砂布及砂紙	從價五分
烟花(各種)	從價五分
造花	從價五分
額縁及天井縁	從價五分
海羅	從價五分
家具(新故ヲ別タス別項ニ掲ケサルモノ)	從價一割
テンニス、クリケット、象棋其ノ他ノ遊戯具(別項ニ掲ケサルモノ)	從價五分

金銀細貨類(貴石、眞珠等ヲ嵌 メタルト否トヲ別々)	從價一割
貼札(鑄罐等ニ用井ルモノ)	從價五分
ラムブ、提燈及同部品	從價一割
皮革製品(別項ニ掲ケサルモノ)	從價五分
麥芽	從價一割
マッチ(各種)	從價五分
支那席(一卷四十碼)	從價五分
柳皮席	從價五分
其ノ他各種ノ地席	從價五分
油畫、水畫、石版畫、著色石版 畫、寫眞畫、法帖、其ノ他別項	從價五分
ニ掲ケサル各種ノ書畫類	從價五分
瀝青、木爹兒及石炭爹兒	從價五分
巴黎灰	從價五分
骨牌(各種)	從價五分
石墨	從價五分
磁器及陶器(別項ニ掲ケサル モノ)	從價五分
貴石及真珠(假製ノモノ)	從價五分
バッテヰ	從價五分
籐(割キタルト否トヲ別々)	從價五分
馬具	從價五分
白檀	從價五分
鞆墨(各種)	從價五分
吸煙器具(阿片吸煙具ヲ除ク)	從價五分
滑石(塊粉ヲ別々)	從價五分
スバルトリ(製帽用ノモノ)	從價五分
海綿	從價五分
石類(別項ニ掲ケサルモノ)	從價五分
甲 建築用其ノ他工作ヲ經 サルモノ	從價五分
乙 裝飾用若クハ家具用其 ノ他工作ヲ經タルモノ	從價一割
丙 肖像其ノ他影刻シタル モノ	從價一割
傘類	從價一割
化粧具匣	從價一割
籠甲製品	從價一割
鞆具(各種)	從價一割
鞆袋、提囊及佩袋	從價一割
絹及絹入ノモノ	從價一割

乙 其ノ他各種 鉢柄及鉢手(金銀製ヲ除ク)	從價一割
紫檀器及黑檀器	從價一割
其ノ他稅目中ニ掲ケサル生粗 用裏革、紐綱、時計彈條製造用 及傘骨製造用ノモノ(ヲ除ク)	從價五分
其ノ他稅目中ニ掲ケサル全製 若クハ半製品	從價五分
前項第三號株主又ハ株主及社員ノ數ハ其ノ事業年度間ノ最多數ニ依ル	
第一項第十一號ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル	
第三條 左ノ割合ニ依リ小切手ニ印紙稅、砂金採取業者ニ砂金採取地稅、汽 車、電車、汽船ノ乗客ニ通行稅、織物ニ消費稅、米及穀ニ輸入稅ヲ課ス	
一 小切手印紙稅	從價五分
二 砂金採取地稅	從價五分
河床ニ非サルモノ	從價五分
河床	從價五分
三 通行稅	
二百哩又ハ二百海浬以上	
一等	十錢
二等	九錢
三等	八錢
二百哩又ハ二百海浬未滿	
一等	金十錢
二等	金九錢
三等	金八錢
百哩又ハ百海浬未滿	
一等	金七錢
二等	金六錢
三等	金五錢
五十哩又ハ五十海浬未滿	
一等	金四錢
二等	金三錢
三等	金二錢
四 織物消費稅	
米及穀輸入稅	從價一割五分
通行稅ヲ賦課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分タサ ルモノニ在リテハ三等ノ稅額ヲ適用シ二等級ニ分チタルモノニ在リテハ 二等三等ノ稅額ヲ適用シ四等級以上ニ分チタルモノニ在リテハ最初ノ二 等級ヲ以テ一等ニト爲シ其ノ他ハ總テ三等ノ稅額ヲ適用ス	從價一割五分
貨切、定期又ハ回數乘船車若ハ多人數乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於	從價一割五分

テハ通行税ハ第一項第三號稅額ノ五倍トス

第五條ノ二 行政訴訟ノ書類ニハ其ノ正本ニ左ノ金額ノ印紙ヲ貼用スヘシ

但シ裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

一 訴狀

二 故障

三 證據調査申立

四 判決ノ送達ヲ求ムル申立

五 期日ノ指定ノ申立

六 判決ノ延定期又ハ辯論

七 從參加ノ申請

八 忌避ノ申請

九 費用額確定ノ申請

十 答辯書其ノ他前各號ニ掲ケサル申立又ハ申請

十一 裁判費用ヲ清偿スルコトノ假免除アリタル場合ノ外前項ニ依リ印紙ヲ貼用セサル行政訴訟ノ書類ハ其ノ效ナキモノトス但シ印紙ヲ貼用セス又ハ

十二 費用額不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得

第十五條ノ三 小切手ノ印紙税ニ付テハ印紙稅法第六條、第八條、第九條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ適用ス

第十六條ノ四 砂金採取地稅ヲ徵收スル場合ニ於テ一町未満又ハ一千坪未満ノ端數ハ一千坪トシテ計算ス

第十七條ノ五 砂金採取地稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第十八條ノ六 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者之ヲ徵收シ一箇月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第十九條ノ七 汽車、電車又ハ汽船營業者カ前項ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條ノ七 米及穀輸入稅ニ付テハ關稅法及關稅定率法中有稅品ニ關スル前項ニ依リ納付スヘキ砂金採取地稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業

ノ廢止ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第十一條 第十二條、第十三條、第十四條、第十五條、第十六條、第十七條、第十八條中「毛織物及石油」ヲ「織物」ニ改ム

第十二條 第十三條、第十四條、第十五條、第十六條、第十七條、第十八條、第十九條中「毛織物」ヲ「織物」ニ改ム

第十三條 第二十條、第二十一條中「營業稅及所得稅」ヲ「營業稅、所得稅及鑛區稅」ニ改ム

第十四條 削除

第二十五條 削除

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ不動產及船舶ニ關スル登錄稅ニ關シテハ明治三十八年四月一日ヨリ、輸入稅ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業稅、所得稅、賣藥營業稅ニ關シテハ明治三十八年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ明治三十八年分賣藥營業稅前半年分ノ增徵額ハ本法施行後一箇月内ニ之ヲ納ムヘシ

明治三十八年分鑛區稅ノ增徵額及砂金採取地稅ハ本法施行ノ月ヨリ月割ヲ以テ計算シ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願ヲ爲シ既ニ非常特別稅法ニ依ル登錄稅ノ增徵額ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其ノ事項ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ更ニ本法ニ依ル增徵額ヲ納ムルコトヲ要セス

自用ニ供スルモノヲ除クノ外本法施行前ヨリ織物ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ政府ニ申告スヘシ但シ毛織物ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

○議長(松田正久君) 発言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

○恆松隆慶君(百五十九番) 本案ハ三十六名ノ委員ヲ、前ノ例ニ依ツテ普通選舉トナルノデザイマス

○議長(松田正久君) 多數起立者如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス、恒松君ノ動議ノ通決定致シマス、讀事日程ノ第五鹽專賣法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

○議長(松田正久君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 本案ハ三十六名ノ委員ヲ、前ノ例ニ依ツテ普通選舉

○議長(松田正久君) 如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數起立者如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス、恒松君ノ動議ノ通決定致シマス、讀事日程ノ第五鹽專賣法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

○議長(松田正久君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 本案ハ三十六名ノ委員ヲ、前ノ例ニ依ツテ普通選舉

○議長(松田正久君) 如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數起立者如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス、恒松君ノ動議ノ通決定致シマス、讀事日程ノ第五鹽專賣法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

○議長(松田正久君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 本案ハ三十六名ノ委員ヲ、前ノ例ニ依ツテ普通選舉

○議長(松田正久君) 如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數起立者如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス、恒松君ノ動議ノ通決定致シマス、讀事日程ノ第五鹽專賣法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

○議長(松田正久君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 本案ハ三十六名ノ委員ヲ、前ノ例ニ依ツテ普通選舉

○議長(松田正久君) 如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數起立者如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス、恒松君ノ動議ノ通決定致シマス、讀事日程ノ第五鹽專賣法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

○議長(松田正久君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(松田正久君) 本案ハ三十六名ノ委員ヲ、前ノ例ニ依ツテ普通選舉

○議長(松田正久君) 如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數起立者如何デアリマスカ、恒松君ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲナサイ

○議長(松田正久君) 多數ト認メマス、恒松君ノ動議ノ通決定致シマス、讀事日程ノ第五鹽專賣法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ガナケレバ讀事日程第四ニ移リマス

第八條 鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ
第九條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、貯藏場及一年ノ生産見込高ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十條 鹽ノ製造業ト鹽ノ賣買業トハ同一ノ場所ニ於テ相兼メルコトヲ得
第十一條 相續ニ因リ鹽ノ製造ニ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ届出ツヘラス

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
第十二條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
第十三條 鹽製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ政府ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ第七條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

政府ハ鹽製造者ヲシテ前項ニ依リ納付スヘキ鹽ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府カ鹽ノ數量ヲ定メ

第十五條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルモノト看做ス
第十六條 鑑定セシメ相當ノ賠償金ヲ交付スヘシ
第十七條 政府ハ鹽ノ製造又ハ包裝ノ方法、納付場所、納付期日及其ノ運搬通路ヲ定ムルコトヲ得

第十八條 政府ハ定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲シタル上納付スヘキコトヲ命スル競争ニ付スルコトヲ得

第十九條 左ニ掲タル鹽ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

第二十條 外國ニ輸出スルモノニ依リテ賣渡シタル鹽ニシテ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス

第二十一條 前條ニ依リテ賣渡シタル鹽ニシテ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス

第二十二條 政府ハ命令ヲ以テ定メタル數量以上ニ非サレハ鹽ノ賣渡ヲ爲サス

第二十三條 當該官吏ハ採鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル鹽賣買業者ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス
第二十四條 鹽製造者及鹽賣買業者ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ記載スヘシ
第二十五條 當該官吏ハ採鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル

場所ニ立入り鹹水、鹽、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得
第二十六條 當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ検査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第十五條左ノ各號ノ一一該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第二十七條 鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ
第二十八條 鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ
第二十九條 前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受ケスシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 鹽賣買業者第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條 鹽製造者又ハ鹽賣買業者其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第三十四條 政府ヨリ賣渡ササル鹽ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第三十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第三十六條 鹽製造者、鹽賣買業者カ未年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第三十七條 嘘製造者又ハ鹽賣業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他の從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カ

ルルコトヲ得ス

第三十八條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 鹽製造者其ノ製造ノ許可ヲ取消サレ又ハ鹽製造者若ハ鹽賣買業者其ノ業務ヲ廢止スルモ製鹽場、貯藏場又ハ販賣場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス

第四十條 本法ニ依リ收納シタル鹽ノ賠償金ノ仕拂ニ關シテハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

附則

第四十一條 本法ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條

第四項及第四十五條ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル地方ニ之ヲ施行セス

第四十三條 本法施行ノ際鹽消費者ノ所有ニ係ル鹽ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十四條 本法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ政府ニ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

本法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ所有シ又ハ所持スル鹽ニ付テハ百斤ニ付

金一圓五十錢ノ割合ニ依リ鹽稅ヲ納ムヘシ

前項ノ鹽ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ其ノ數量及所在ヲ政府ニ申告スヘシ

申告ヲ怠リ又ハ不正ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ニ對スル稅金ノ三

倍ニ相當スル罰金ニ處ス

鹽稅ノ徵收ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二項ニ依ル納稅濟ノ鹽ハ政府ノ賣渡シタル鹽ト看做ス

納稅期日前ニ於ケル鹽ノ所有又ハ所持ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十五條 本法發布前ヨリ鹽ヲ製造スル者ハ本法發布ノ日ヨリ三箇月以内

内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十六條 本法施行ノ際鹽ヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内

ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ鹽ノ製造ヲ爲スコトヲ得

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ナケレバ日程第六ニ移リマセ

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○鈴木摠兵衛君(三百四十四番) 質問ガアリマス

○議長(松田正久君) モウ是ハ委員ノ選舉アス——恵松君ノ動議ニ異議ハアリマセ

テ……
〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○鈴木摠兵衛君(三百四十四番) 質問ガアリマス
○議長(松田正久君) モウ是ハ委員ノ選舉アス——恵松君ノ動議ニ異議ハアリマセ
ヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(松田正久君) 然ラバ異議ナキモノト認メテ、恵松君ノ動議ニ決シマス、議事日程第七ニ移リマス、相續稅法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

第七 相續稅法案(政府提出)

相續稅法

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國內ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人力帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人力本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲タル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

一本法施行地ニ在ル動產及不動產

二 本法施行地ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利

三 前二號ニ掲タルモノ以外財產權

被相續人力本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

相續開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住

所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相續人力本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施

行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人力本法施行地

ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 公課

二 被相續人ノ葬式費用

三 債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地

ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人力本法施行地ニ在

ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 其ノ財產ニ係ル公課

二 其ノ財產ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以

テ擔保セラル債務

三 其ノ財產ニ關スル贈與ノ義務

第四條 永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

一 土地ニ付テハ貨貸價格ノ二十倍、建物ニ付テハ其ノ十倍ヲ以テ其ノ

價格ヲ評定ス

一 土地ニ付テハ貨貸價格ノ二十倍、建物ニ付テハ其ノ十倍ヲ以テ其ノ

價格ヲ評定ス

一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年數ニ應シ一年ニ付其ノ二

十五分ノ一宛ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ價格トス但シ製造後二十二

年ヲ經過シタルモノハ製造費ノ五分ノ一ヲ以テ其ノ價格トス

一年ニ満タサル端數ハ之ヲ一年トシテ計算ス

相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ナルトキハ其ノ

最低キ稅率ヲ適用ス

第九條 相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認

若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺產相續

人ニ對スル稅率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得

相續人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相續人ニ對スル稅率ヲ

適用シテ相續稅ヲ課ス

前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ

稅金ノ差額ヲ追徴シ又ハ還付ス

第十條 相續稅ヲ課セラレタル後三年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキ

ハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

相續稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ソ

相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行人又ハ相續財產管

理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價額中ヨ

リ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ

相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ提出スヘキ者カ帝

國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定

ノ日ヨリ一箇月以内ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出

スヘシ

第十二條 戶籍吏左ノ事項ニ關スル居書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳

ニ報告スヘシ

一 死亡又ハ失踪

二 戶主ノ隠居又ハ國籍喪失

三 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四 入夫婚姻ニ因リ女戸主カ戸主權ヲ喪失シタルコト

五 戸主タル入夫ノ離婚

第十三條 課稅價格ハ政府之ヲ決定ス

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人、遺言執行人又ハ相續財

產管理人ニ通知スヘシ

第十四條 相續人、遺言執行人又ハ相續財產管理人前條ノ決定ニ對シ異議

アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審查ヲ求ムルコトヲ得

相續人、遺言執行人又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮詢ヲ經テ政府之ヲ決定ス

審查委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ

相續人、遺言執行人又ハ相續財產管理人帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第十七條 第十四條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖相續人、遺言執行人又ハ相

續財產管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ稅金ヲ納付スヘシ

第十八條 相續人、遺言執行人又ハ相續財產管理人ハ相續稅ヲ納付シ又ハ

其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

第十九條 相續財產ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始

前一年内ニ被相續人ヨリ本法施行地ニ在ル財產ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 相續稅ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得

第二十一條 相續人、遺言執行人又ハ相續財產管理人期限内ニ第十一條ニ

依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定シ催告ヲ

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

第二十二條 左ニ掲タル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動產及船舶以外ノ

財產ニ付爲シタル贈與ノ價額カ五百圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタ

ルモノト看做シ其ノ財產ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徵收金ニ付連帶納付

ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲タル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動產及船舶以外ノ

財產ニ付爲シタル贈與ノ價額カ五百圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタ

ルモノト看做シ其ノ財產ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課

一 被相續人カ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ贈與ヲ爲シタルト

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十一條ノ規定ヲ適用セス

ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫

シ又ハ逋脫セムトシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第二十四條 第二十條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十五條 府縣市町村其ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

○鈴木總兵衛君(三百四十四番) 政府委員ニ質問致シマス、此相續稅法案ノ百

万圓ヲ限度トシテアルコト、ソレカラ第二ニハ此動產不動產ト云フモノ、區別ニ於テ

ハ、ドノ邊マデノ區域ヲ取テアル、モナアルカ、此法文ノ上ニ於テハ不明瞭デゴザイマス

○政府委員（若槻禮次郎君）百万圓ヲ以テ限度ト致シマシタコトハ、詰リ程度ノ問題デ、斯ウ致シタ、尙動産不動産ノ區別ハ、ソレハ民法ノ規定シテアル通デアリマス

○議長（松田正久君）發言ノ請求者ナケレバ、議事日程第八ニ移リマス

○恵松隆慶君（百五十九番）此委員ハ十八名トシテ選舉スル、ヤハリ各部通シテ云フ……

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長（松田正久君）「賛成タク」ト呼フモノアリ

〔「異議ナシ」異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕

○議長（松田正久君）然ラバ恵松君ノ動議採用サレルモノト認メマス、議事日程第九ニ移リマス、酒造稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第九 酒造稅法中改正法律案（政府提出）

第一讀會

酒造稅法中左ノ通改正ス

第一條ノ二 此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ酵母セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ酵母セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ掲タルモノハ清酒ト看做ス

一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ酵母セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ酵母セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノ

三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノヲ謂フ

内ノ燒酎又ハ燒酎セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ三 此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ酵母セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ酵母セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ酵母セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ酵母セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四 此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味

淋、燒酎又ハ酒酵母ヲ加ヘテ酵母セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五 此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米又米麴ト清酒、味淋、燒酎又

ハ酒酵母ヲ混和シ濾過タルモノヲ謂フ

前項原料ノ外味淋又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノハ味淋ト看做ス

第一條ノ六 此ノ稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス

二 潤酒

三 味淋

四 麦、粟、稗若ハ甘諸ト麴及水トヲ原料トシ酵母セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ酵母セシメタルモノ

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種

酒類分二十度以下ノ清酒、

濁酒、白酒、味淋及酒精分三

十度以下ノ燒酎

一石ニ付 金十五圓

第二種 酒精分三十五度以下ノ燒酎

一石ニ付 金二十五圓

第三種 酒精分四十五度以下ノ燒酎

一石ニ付 金三十圓

第四種 酒精分四十度以下ノ燒酎

一石ニ付 金三十五圓

第五種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、

濁酒、白酒、味淋及精酒分四

十五度ヲ超ユル燒酎

一石ニ付 金十五錢

第十二條第三號中「第二種ノ酒類」ヲ「燒酎」ニ改ム

第二十條削除

第二十一條削除

第二十二條中「酒母、醪又ハ」ヲ削除

第二十三條削除

第二十二條ノ二削除

第三十三條削除

第四十條削除

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長（松田正久君）「異議ナシ」ト呼フモノアリ

○恵松隆慶君（百五十九番）是ハ第二日程ノ委員ニ付託センコトヲ願ヒマス

○議長（松田正久君）恵松君ノ動議ニ異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フモノアリ〕

○議長（松田正久君）別段異議ナキモノト認メテ、恵松君ノ動議ノ如ク決定シマス

議事日程第十一ニ移リマス、酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

第三條ノ三 本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醸

酵セシメタルモノヲ謂フ

葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又

ハ其ノ酸ヲ稀釋シ酵酶セシメタルモノハ果實酒ト看做ス

第四條中「及葡萄實ヲ以テ醸造シタル葡萄酒」ヲ削ル

第二十四條ノ一 葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九

條乃至第二十三條ノ規定ニ限り本法ヲ適用ス

免許ヲ受ケヌシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以

下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ葡萄酒ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ

本法施行後一箇月以内ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ

繼續スルコトヲ得

○議長(松田正久君) 発言ノ請求者ナケレバ議事日程第十一ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十二ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十三ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十四ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十五ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十六ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十七ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十八ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第十九ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第二十ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 発言者ナケレバ議事日程第二十一ヲ議題ト致シマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官報號外 明治二十七年十一月四日 衆議院議事速記録第三號 議事日程第十二乃至第十七ノ件

第十五 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出)第一讀會

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條 沖繩縣内ニ於テ製造シタル清酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國

内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ旅客ノ携帶品タルト否トヲ問ハス其ノ石

數ニ應シ酒造稅法第四條ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第十六ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第十七ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第十八ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第十九ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十一ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十二ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十三ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十四ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十五ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十六ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十七ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十八ニ移リマス

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ日程第二十九ニ移リマス

醪ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス

第十條 酒母、醪又ハ麴ノ検査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ十圓以

上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者酒母、醪又ハ麴ノ製造出

入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ

帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三

圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑

法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十四條 酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未成年者又ハ禁治產

者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同

一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者ハ其ノ代理人、戸主、家

族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基

キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以

テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又

ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其

ノ旨政府ニ申告スヘシ

第十八條 第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、

醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

附
則

第十九條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ醪製造ノ免許ヲ受

ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムト

スル者ハ本法施行後十五日以内ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 沖繩縣及東京府下小笠原島伊豆七島ニハ本法ヲ施行セス

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ議事日程第十八ニ移リマス

○恵松隆慶君(百五十九番) ヤハリ前ノ委員デゴザイマス

(異議ナシ)「ト呼フモノアリ」

○議長(松田正久君) 異議ナケレバ恵松君動議ノ如ク決定致シマス、議事日程第

十九ニ移リマス、朗讀ハ省略シマス

第十九條 酒造組合法案(政府提出)

酒造組合法

第一條 本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、濁酒、白洒、味淋又ハ燒酎

ヲ製造スル者ヲ謂フ

第二條 酒類製造者ハ稅務署管内ヲ一區域トシ酒造組合ヲ設クリコトヲ得

但シ土地ノ狀況ニ從ヒ特別ノ區域ニ依ルコトヲ得

第三條 酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保

スルヲ以テ目的ト爲ス

第四條 酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル酒類製造者

三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受ク

ヘシ

二種以上ノ酒類ノ製造者組合ヲ設置セムトスルトキハ各種毎ニ其ノ三分

ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條 酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同種酒類

ノ製造者ハ當然其ノ組合員ト爲ル

第六條 酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲酒造組合聯

合會ヲ設置スルコトヲ得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定

シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘ

シ

第九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 政府ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニ

シテ法令若ハ定款ノ規定ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決

議ヲ取消シ、其ノ行爲ヲ制止シ、役員ノ改選ヲ命シ又ハ組合若ハ聯合會

ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外酒造組合及酒造組合聯合會ニ關スル事

項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附
則

第十二條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 酒造稅法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ

依リ設立シタルモノト看做ス

前項ノ酒造組合ニシテ其ノ區域内ニ於ケル酒類ノ製造者各種毎ニ三分ノ

二以上ヨリ成立スルトキハ同區域内ニ於テ未タ組合ニ加入セサル同種酒

類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト爲ル

○議長(松田正久君) 發言者ナケレバ議事日程第二十ヲ議題ト致シマス

(異議ナシ)「聲起ル」

○議長(松田正久君) 恵松君ノ動議ノ如ク、前委員ニ附託スルコトニ、御異議ハアリ

マセヌカ

第一讀會

○議長(松田正久君) 然ラバ恒松君ノ動議ノ如クニ決定シマス

○議長(松田正久君) 議事日程第二十一ニ移リマス朗讀ハ省キマス

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登録ニ付テハ附則

○議長(松田正久君) 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二十一 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

鑛業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登錄稅ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其ノ事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二條第一項第一號中「千分ノ七」及第二號中「千分ノ十五」ヲ「千分ノ五」ニ改メ

第三條第一項第二號中「千分ノ六」ヲ「千分ノ三」ニ改メ

第十三號ヲ削ル

第十四條 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登

錄稅ヲ納ムヘシ

二 試掘權ノ設定

三 増減區又ハ増減區

每一件 金三十五圓

每一件 金十圓

每一件 金三十五圓

每一件 金十圓

每一件 金三十五圓

每一件 金百五十圓

每一件 金五十圓

每一件 金七十五圓

每一件 金二十圓

每一件 金七十五圓

每一件 金二十圓

每一件 金五十圓

每一件 金七十五圓

每一件 金二十圓

每一件 金五十圓

每一件 金七十五圓

每一件 金二十圓

每一件 金五十圓

每一件 金二十圓

每一件 金五十圓

每一件 金二十圓

每一件 金五十圓

每一件 金二十圓

每一件 金五十圓

每一件 金二十圓

第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉
○恒松隆慶君(百五十九番) 改メテ申シマス、是ハ登錄稅法案ノ委員ニ付託致シ
マシテ、人數ハ曩ニハ一十七名ヲ、誤ダテ十八名ト申シタカ知リマセガ、全ノ二十七
名ト云フコトニ致シタイト思イマス

○議長(松田正久君) 是が登錄稅法ノ委員ニアリマス
○恒松隆慶君(百五十九番) 登錄稅ノ委員ハ前ノ相續稅ノ委員ノ方ニ付託シテ、
其人數ヲ一十七名ト改メマス
○議長(松田正久君) 恒松君ノ動議ニ異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ」聲起ル〕

○議長(松田正久君) 然ラバ恒松君ノ動議ノ如ク決定シマス、——議事日程第二
十三ニ移リマス、朗讀ハ省略致シマス

第二十三 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案
(政府提出)

關稅定率法附屬輸入稅表中左ノ通改正ス

第二種中「五一四ノ一鐵礦」ヲ削リ「五一四ノ二」ヲ「五一四ノ一」ニ改メ五一

八ノ次ニ左ノ如ク加ヘ以下「五一八ノ四」迄順次繰下ク

五一八ノ一
金銀礦及鐵礦

本法ハ發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

○議長(松田正久君) 發言ガナケレバ 議事日程第二十四ニ移リマス、議事日程第

二十四ニ付イテ御發言ハアリマセヌカ

〔「贊成々々」聲起ル〕

○議長(松田正久君) 恒松君動議ノ如ク、非常特別稅委員ノ方ニ付託致シタイト思

マス
〔「異議ナシ」聲起ル〕

第二十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
○議長(松田正久君) 恒松君動議ノ如ク、非常特別稅委員ノ方ニ付託スルコト

○議長(松田正久君) 然ラバ恵松君ノ動議ノ如ク決定シマス——議事日程第二十
五ニ移リマス、朗讀ハ省略シマス

第二十五 鐵業法案(政府提出)

第一讀會

鑄業法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑄業ト稱スルハ鑄物ノ試掘及探掘竝之ニ附屬スル選鑄
及製鍊ノ事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑄物ト稱スルハ金鑄、銀鑄、銅鑄、鉛鑄、銻鑄、鋸鑄、錫鑄、安
質母尼鑄、水銀鑄、亞鉛鑄、鐵鑄、硫化鐵鑄、格魯謨鐵鑄、滿倅鑄、タンガス
テン鑄、砒鑄、燐鑄、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑄
ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 未タ掘採セサル鑄物(廢鑄ヲ含ム)ハ國ノ所有トス

第四條 本法ニ於テ鑄業權ト稱スルハ試掘權及探掘權ヲ謂フ
鑄業權者ハ鑄區ニ於テ其ノ認可ヲ受ケタル鑄物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル
權利ヲ有ズ但シ鑄區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑄業權者ハ互ニ其ノ權利
ヲ制限セラル

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑄業權者
ト爲ルコトヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑄業權者ノ權利義務ハ鑄業權ト共ニ移轉ス
本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑄業ヲ出願セムトスル
鑄業出願人、鑄業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效
力ヲ有ス

第七條 二人以上共同シテ鑄業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人
ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑄山監督署長ニ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ
鑄山監督署長之ヲ指定ス

第八條 本法ニ於テ鑄夫ト稱スルハ鑄業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ
第九條 本法ニ於テ鑄區ト稱スルハ鑄業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂
フ

鑄區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ
石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑄物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ
六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑄利保護上又ハ鑄區分合上已ヲ得サル
同一ノ鑄區ニ於テハ二以上ノ鑄業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的
異種ノ鑄物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内茲要塞地帶第一區内ノ場
所ハ之ヲ鑄區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火薬製造所、火薬庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内
茲要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレ
ハ之ヲ鑄區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑄業ノ爲之
ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、墓地、公園
地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於
テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑄業ヲ
爲シ又ハ鑄業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ
理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑄業出願地又ハ鑄區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑄業ノ
出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑄業稅ト稱スルハ鑄區稅及鑄產稅ヲ謂フ
第十四條 本法ハ第六章及第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑄業ニ之ヲ適用ス

第二章 鑄業權

第十五條 鑄業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七
十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑄業權ハ不可分トス

第十七條 鑄業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ
目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑄區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルコトナシ

第十九條 鑄業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅竝處分ノ制限ハ鑄業原
簿ニ登録ス共同鑄業權者ノ脫退ニ付テモ亦同シ但シ鑄業權ノ處分ヲ制限
セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑄業權ノ
消滅竝第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登録ヲ爲スニ非
セラハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 鑄業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑄區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑄
山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條 鑄業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試
掘ニ付テハ鑄山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サ

レハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑄物ノ存在スルコ
トヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルト
キハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ採掘ノ出願ヲ爲ササ
ルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メ
タル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 採掘出願地ノ位置形狀鑄床ノ置位形狀ト相違シ鑄利ヲ損スル
モノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス
第二十六條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得
第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得
第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス
第二十九條 試掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三十條 採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス
第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ
鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得
第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス
第三十三條 試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ツヘシ
出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム
前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス
第三十四條 試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有スノ場合ニハ之ヲ適用セス
前項本文ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セス
第三十五條 採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ
第三十六條 鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接スル他人ノ鑛區ニ掘進スルノ必要アルトキハ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ經テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得但シ鄰接鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
第三十七條 第二十五條第一項、第二十一条、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス
第三十八條 第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ
第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ
第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登録ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ採掘權ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得
第四十一條 鑛業權者第七十二条ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得
第四十二條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ
第四十三條 前條ノ規定ハ採掘權者慶業シタル場合ニ之ヲ準用ス
第四十四條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第四十六條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置キ且其ノ復本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鐵業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵業ニ關スル明細表ヲ鐵山監督署長ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鐵產物ハ鐵山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條 鄰接鐵業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鐵區ニ付鐵山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調查ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章 土地使用

第五十條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條 鐵業ノ出願又ハ鐵業ノ爲必要アルトキハ鐵業ヲ出願ヒムトスル者、鐵業出願人又ハ鐵業權者ハ鐵山監督署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入ラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ鐵山監督署長ノ許可ヲ得テ障碍物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障碍物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條 鐵業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鐵業權者ハ鐵山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鐵業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鐵業權者ハ左ニ掲タル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 錐鑽孔、坑口又ハ坑道ノ開穿
二 鑽物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鐵滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置
三 選鑽場又ハ製鍊場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、溝渠、管桶、池井、索道又ハ電線ノ開設

五 其ノ他鐵業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鐵業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鐵山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 知スヘシ
前項ノ通知ノ後鐵業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ工作物ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鐵山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鐵業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鐵業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鐵業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條 鐵業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サヌ又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鐵業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鐵業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鐵業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鐵業警察

第七十一條 鐵業ニ關スル警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及鐵山監督署長之ヲ行フ

第七十二條 鐵業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ鐵業權者ニ其ノ豫防又ハ鐵業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督署長ハ前項ノ處分ヲ爲スコ
トヲ得
第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任
ヲ命スルコトヲ得
管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署
長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ
關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看
做ス
第五章 鑛夫
第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞務ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署
長ノ許可ヲ受クヘン
第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備
ヘ置クヘン
第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ依リ雇傭
ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フ
ヘシ
第七十八條 鑛業權者ハ毎月二回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃
金ヲ支拂フヘシ
第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者
ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得
第八十條 鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹
リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫又ハ其ノ
遺族ヲ扶助スヘシ
第六章 鑛業稅
第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス
金鑛、銀鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス
第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス
第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テ八十錢、採掘ニ付テ
ハ四十錢トス但シ一千坪未満ハ之ヲ一千坪ト看做ス
第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
第三十五條 第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登録ニ
依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登録ノ年ニ係ルモノハ之ヲ
ヲ即納スヘシ
前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間
満了ノ年ニ係ルモノ亦同シ
第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス
鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示
ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス
第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ
場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス
第八十八條 収稅官吏ハ鑛業ニ關スル書類及物件ヲ検査スルコトヲ得
第八十九條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各本稅百分ノ十五以内
ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得
前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛
區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス
前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區域間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノ
ニ之ヲ準用ス
第七章 訴願訴訟及裁決
第九十條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起
スルコトヲ得
第九十一條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ
得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
第九十二條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十三條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ
又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申
請スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
ラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十四條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル
トキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日
ヨリ之ヲ起算ス
第八章 罰則
第九十五条 鑛業權ヲ有セシシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以
テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十六条 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓
渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス
第九十七条 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十
二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處
ス
第九十八条 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第
四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九
條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以
下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規
定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

載シタル物ノ未タ行使セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第八條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

第九條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年勅令第七十三號ハ之ヲ廢止ス

○恵松隆慶君(百五十九番)此二十七カフニ二十四マデハ、一括ノ議題トシテ同一委員ニ付託致シタイト思ヒマス

(「異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 恵松君ノ動議ノ如ク、三十四マデ一括シテ議スルコトニ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 然ラバ一括シテ議題ニ付シマス

第二十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十九 明治三十七年勅令第二百十二號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

勅令第二百十二號

徵兵令中左ノ通改正ス

第四條中「後備兵役」ノ下ニ「陸軍ハ十箇年海軍ハ」ヲ加フ

第五條「補充兵役」ハ陸軍ニ在リテハ十一箇年四箇月海軍ニ在リテハ一箇年ニシテ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員ニ二服ス

第六條第二項中「後備兵役及第一補充兵役」ヲ「陸軍ニ在リテハ後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其ノ役ヲ終リタル者」ニ改ム

第十七條第一項第二項中「第一補充兵」ヲ「陸軍補充兵」ニ改メ第三項ヲ削除

第二十四條中「第一補充兵」ヲ「陸軍補充兵」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ於ケル第一補充兵及第二補充兵ハ前後ノ服役ヲ通算シテ十

二箇年四箇月ニ満ツル迄補充兵役ニ服セシム

本令施行ノ際第一國民兵役ニ在ル陸軍出身者ニシテ服役尙五箇年ニ満タサル者ハ五箇年ニ満ツル迄後備兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ後備兵役ニ、第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ補充兵役ニ服セシム

第三十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三十一 明治三十七年勅令第二百二十五號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

勅令第二百二十五號

俘虜監督者監視者又ハ護送者ニ對シ反抗若ハ暴行ノ所爲アル者ハ重禁獄ニ處シ其ノ情輕キ者ハ六月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二條 俘虜共謀シテ多衆前條ノ所爲アルトキハ首魁ハ死刑ニ處ス其ノ他ノ者ハ有期流刑ニ處シ其ノ情輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

第三條 俘虜共謀シテ多衆逃走ノ所爲アルトキハ首魁ハ有期流刑ニ處シ其ノ情重キ者ハ死刑ニ處ス其ノ他ノ者ハ重禁獄ニ處シ其ノ情輕キ者ハ六年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第四條 宣誓解放ヲ受ケタル俘虜宣誓ニ背ク者ハ死刑ニ處ス

第五條 俘虜逃走セサル宣誓ヲ爲シ之ニ背ク者ハ重禁獄ニ處ス其ノ他ノ宣誓ニ背キ兵器ヲ操リ抗敵スル者ハ死刑ニ處ス

第六條 第一條乃至第三條ノ規定ハ再ヒ俘虜ト爲リタル者ノ前ニ俘虜タリシトキニ犯シタル罪ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三十三 明治三十七年勅令第二百二十八號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

勅令第二百二十八號

政府ハ臨時事件費支辨ノ爲公債一億二千萬圓ヲ募集スルコトヲ得前項公債ニ關シテハ明治三十七年法律第一號第三條及第四條ノ規定ヲ適用ス

第三十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恵松隆慶君(百五十九番)此委員ハ各案毎ニ九名ヲ、即チ議長ノ指名ト云フコトニ願ヒマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 恵松君動議ノ如ク、議長指名ノ委員ニ付託スルコトヲ得

議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 然ラバ恵松君ノ動議ノ如ク決定致シマス——恵松君ニチヨウト照會シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 相續稅法案ノ場合ニハ、十八名ノ委員ト申シタヤウデスガ、アトノ登録稅法案ニ附帶シタモノアリマスカラ、更ニ委員ノ數ヲ改メマシテ、增加シテ二十一名トスルト云フコトノ動議ヲ提出致シマス、左様御承知ヲ願ヒマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 恵松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 然ラバ恵松君動議ノ如ク決定致シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 委員ノ選舉ハ、直チニ行ハレンコトヲ希望致シマス

○江藤新作君(二百十九番) 各部ノ選舉ハドウナサイマスカ、議長ノ宣告ヲ願ヒマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 是ヨリ直チニ各部ニ於テ選舉セラレテ、議長マヂ御報告ヲ望ミ

マス、其間休憩シマス

午後二時三十分休憩

